

民間所在資料保存状況調査より

杉谷家文書（田辺市龍神村東）

文書館では、和歌山県内の古文書などの所在及び保存環境を確認する「民間所在資料保存状況調査」を実施しています。令和四年度からは、田辺市教育委員会の御協力をいただき、旧龍神村・旧中辺路町・旧本宮町域を対象地域として、特に災害関連記録を中心に調査中です。

この調査に伴って現在一時預かり中の杉谷家文書を御紹介します。

杉谷家は、中世に鶴ヶ城（現田辺市龍神村東）城主であった山地玉置家さんじの末裔との由緒

を持ち、鶴ヶ城の近くに続く旧家です。江戸時代末期の当主為左衛門重嘉が文政八年十二月（一八二六）、地方在住の紀州藩家臣である山家同心杉谷又左衛門の養子となつてその職を継いで以来、杉谷姓となります。為左衛門は東村庄屋も務めました。

為左衛門の長男欽十郎も東村庄屋を務め、慶応二年（一八六六）日高郡胡乱者改役うるんものあらために就任します。また、明治に入つて山地組大庄屋

・同郷長・同戸長こちよう・第六大区六小区副区長・同区長を歴任しました。

欽十郎の養子静一郎は、日高郡役所書記を勤めた後、和歌山県会議員・東村外四ヶ村連合戸長かみさんじ・上山路村会議員・日高郡会議員などの公職を歴任しました。静一郎の記した明治九年（一八七六）以降昭和初年に至る膨大な日

誌が残っており、そのうち明治二十二年大水害についての詳細な記録（「水害日誌」）が広く知られています。

ここに展示しているのは、杉谷為左衛門・欽十郎・静一郎三代の紀州藩・和歌山県での役職に関する文書です。

杉谷家文書は、現在二二箱分を文書館が一時預かりし、撮影・調査を進めています。静一郎「水害日誌」の他は、これまで『日高郡誌』『龍神村誌』でわずかに採り上げられているだけで、全体としては未開拓です。

今後の活用によって新事実の発見が期待できる、貴重な記録群といえます。